



いづみ

No.73

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 43



《エントランスで妖精と演奏会》

菅原 義則

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 43

作者の言葉

街角でチェロを弾いていると、どこからともなく妖精がやって来て、一緒に演奏するというストーリー。単純でシンプルな内容ですが、ストレートな方がいろいろな物語を想像してもらえるとと思っています。作品は3点で構成しており、そのうちの1点です。

(1955年、夕張市出身。札幌市在住。)

タイトル：

《エントランスで妖精と演奏会》

制作年：2003年6月

素材：銅、真鍮

サイズ：H130×W100×D65 cm

設置場所：大通西20 アスピアビル

連載 宮の森の四季 43

本郷新記念札幌彫刻美術館

「特定非多数」をプラスする新しい日常

館長 寺嶋弘道

「新型コロナ」と言えば、半世紀前には憧れのクルマのことだった。ライバル車ブルーバードとの激烈な販売競争は「BC戦争」とも呼ばれ、何年も戦いは続いた。それが今は違う。今度も戦争と言われているが、未知のウイルスと人類の戦い。だが、敵対意識や防御方法は国や地域によってマチマチで、全人類一丸となって戦っているようには見えない。

しかも、感染拡大は収まるどころか地球規模で広がる一方である。人類は劣勢。わが国でも、休止・自粛していた社会活動の再開とともに感染者数は増加の一途だ。各業界ともガイドラインを整備し、コロナ渦中の新しい生活様式を唱えている。美術館や博物館も同様に、さまざまな制約のうち来館者に名前と連絡先の申告を求めている館が多い。老若男女すべてに扉を開く生涯学習施設が、特定可能な入館者だけを受け入れるという姿勢に一転した。さらに密集・密接を避けるため入場抑制も行っている。これまで超過密な観覧を是とし、多数の来場者を見込んで規模を拡大してきた展覧会に興行的側面から見直しを迫る事態だ。不特定多数を対象にしつつ、さらに「特定非多数」をプラスするというこの美術館の新しい日常。当分、美術館ではこうした安全対策を模索し続けることになるだろう。

考えてみると、特定非多数の利用者は従前から存在する。ボランティアやサポーター、友の会や協力会などの会員、メルマガ購読者やSNS フォロワーなどだ。こうした人びととの関係を今こそ積極的に再構築すべきではないか。「with コロナ」の新時代は、特定非多数の人びとの連帯の力で人類の文化や芸術を守っていく好機なのだと考えたい。

今年の夏に考えたこと

(株) キタバ・ランドスケープ 代表 斉藤浩二

新型コロナ感染の拡大によって札幌の街の様相が変わりました。その中で最も顕著だったのは大通公園でした。イベントが無いので屋台やテントや人の混雑が無い。空気が澄み、木々は緑濃く、花は鮮やか。ブラック・スライド・マントラやクジラ山、先人の像がいつも見通せます。そして、そこにいる人は和み、くつろいでいます。私はあらためて公園には市民一人一人の安らぎや楽しみがあるべきだと気づきました。本来経済とは無縁な公園も最近では経済活性化のために活かすべきとされ、大通公園もひっきりなしのイベントで賑わう場所になっていましたから。

大通公園は誕生以来、博覧会やお祭りによく使われて来ましたが、近年は公園の経済的活用の成功事例として紹介されるほどでした。それはそれで良かったのですが、普通の公園利用者にとっては商業的で落ち着かない場所になっていたのです。私も子供の頃家族でお弁当を食べたり、高校の部活で野外絵画展をしたことなどを忘れて、単なるお客さんになっていました。

経済論理からすると、今年の状況はとても困ったことなのでしょう。でも、街のど真ん中にこんな気持ちの良い空間を持っている都市は全国的にも珍しいので、この街に行きたい、住みたいと憧れる人が増える方が長期的な経済効果は大きいはず。郊外の公園と違い、中心街で人が集まれる場所として使われることも大事です。要するに近年はバランスを欠いていたのだと思います。

公園は、変化する社会からの要求を受け

入れやすいため、経済活動優先の場所になりましたが、今年災厄に見舞われて本来の姿を取り戻したようです。このように変わりやすい公園には、いつまでも変わらないものがなくてはなりません。それが人の記憶のよすがになり安心感を与えます。「友の会」の活動は、その変わらないものを守っていて、とても意義深いことだと思います。

また、コロナ禍で延期した東京オリンピック・パラリンピックは、来年の開催も未定ですが、もし開かれれば札幌の街そのものがマラソンと競歩の会場になります。大通公園はスタートとゴールになるほか、選手たちは途中2回通過し、北大や道庁など街の中心部をグルグル何度も回ります。

さて、テレビなどを通じて世界中からどれだけの人がこれを見るでしょう。もちろんレース展開や結果が一番の関心事ですが、背景の街もしっかりと目に入ります。私たち市民も外からの目線で札幌を見ることになります。その時自分は良い街に住んでいると思えるかどうか。人によって答えは違って、それが我が街を考え直すきっかけになることを願います。

「友の会」がいち早くコース沿道の野外彫刻の存在を発信していることに感心していますが、私は街路樹をはじめ、街なかの樹木がどんなに大切か、たくさんの方が気づいてほしい。私たちに与えてくれる恩恵を忘れて邪魔ものにし、落ち葉をゴミ扱いする人に樹木の有り難さを感じてほしいのです。こういう思いがあるので、私は来年、東京オリ・パラが開かれることを大いに期待しています。

コロナ禍と彫刻美術館

—2020年2月から5月までのこと—

本郷新記念札幌彫刻美術館 学芸員 岩崎 直人

2020年、新型コロナウイルスの発生を受けて、私たちを取り巻くさまざまな思いもしなかった方へと次々と展開した。ここでは、記録的な意味も込めて、本郷新記念札幌彫刻美術館において起きた5月までのことを綴っておく。

当館が最初に受けた影響は、2020年2月23日に予定した「彫美連続講座2019 第4回講演会」であった。一所に人々が参集することによって感染の可能性が高まることが広く指摘されたことから、講演日の2日前に中止になるやもとの連絡を参加予定者に電話やファックスで伝え、その翌日、すなわち講演前日に中止決定の連絡を行った。

飛び込みの参加も可能としていたので、当日、会場となるはずであった札幌文化芸術交流センターに赴き、やはり来場された5、6名の方に説明とお詫びを申し上げた。なお、本講演は、かつて当館学芸員として28年間勤めた井上みどりさんにご講話いただく予定であったが、およそ半年後の8月8日に令和2年度の講座として実現している。

講演会中止の次には、ついに臨時休館を迫られる事態となる。その期間は、2月29日から当初3月15日までとされたが、感染者数が依然としてとどまらぬことから、3月22日まで、さらに追って3月31日まで延

長となった。2月20日に開幕したばかりの本館「所蔵品展」は年度内たった9日間の開催という憂き目を見たが、4月1日からは開館の運びとなった。しかし、それも束の間、年度境特有の人々の大移動を受け、感染は拡大し、4月14日より再び臨時休館を余儀なくされることとなる。

この頃から職員の時差出勤と在宅勤務を新体制として採用する。「とにかく、家にいる」ことの要請を受け、本郷新に関する膨大な新聞記事のスクラップのデータ化作業に職員皆が自宅で取り組み、格段にその作業が進んだことは明るい成果であった。

4月29日に開幕予定であった記念館「本郷新のレガシー【五輪大橋と花束】」展は一通りの展示を終えてはいたが、二度目の臨時休館は5月6日まで、追って5月31日までとされていたので、誰の目にも触れることなく、スポットライトも浴びることなくひっそりと静まりかえっていた。

ところが、経済の不活性を重く見た行政は、活動再開を順次進めることとし、美術館・博物館の臨時休館期間をおよそ一週間早めて解くこととなった。当館は感染予防、拡大防止の対策をしっかりと講じた上で、5月24日より開館、晴れて“花束”をもって人々を迎え入れることとなったのである。

野外彫刻清掃活動に参加して

2019-20年度札幌大通公園 RC 会長 菅原秀二

2020年7月26日の日曜日午前10時から、大通公園2丁目のブロンズ彫刻6作品の清掃に、「札幌彫刻美術館友の会」の皆さんとようやく参加することができました。

実は、私の会長の年度に、札幌大通公園 RC(ロータリークラブ)では、従来の社会奉仕活動である「ポリオ募金」と「献血促進活動」の見直しを検討していました。特に、「献血促進活動」については、日本赤十字社との協力関係がうまく構築できず、新しい社会奉仕ができないものかと思案しているところでした。

その時に、O 会員の奥様が所属されている「札幌彫刻美術館友の会」を紹介していただき、「野外彫刻清掃活動」のを知り、新しい活動として本クラブにふさわしい活動であるとの認識に至りました。その理由は、当クラブの10周年記念誌にも記載されておりますが、2008年の8月12日に単発の事業ではありましたが、すでに退会した T 会員の発案で、市内の高校生20名ほどを集めて「大通公園から始まる彫刻ツアー」を企画・実施しました。大通公園の彫刻から始めて、五輪橋(南区真駒内)の彫刻を経て、彫刻の森美術館の野外彫刻、本郷新記念札幌彫刻美術館を1日で見て回ろうというぜいたくで忙しいものでした。私も参加させていただき、札幌に多くの彫刻があることを再認識しました。ちなみにこの事業は、翌日の北海道新聞に掲載されました。



今回はこの意味で、再び彫刻と向き合うことができる機会を得られると楽しみにしておりました。しかし、新型コロナの感染拡大により、春になっても清掃はできず、地区から補助金をいただいていたにもかかわらず、私の会長年度は6月で終わってしまいました。「ようやく」と先に書いたのは、新年度になって待望の活動が実施されたからです。わがクラブではこの日のためにおそろいのウィンドブレーカーを作るほどの力の入れようでした。写真を見てください。

この日は、都合で当クラブの会員は6名しか参加できませんでしたが、友の会の皆さんに負けないう、これからさらに参加者を増やしていきたいと思っています。また、当日は彫刻の清掃のイロハを教えていただければだけでなく、清掃を手掛けた6作品の解説もしていただき、誠にありがとうございました。今後とも末永く、協力関係を続けていくことができれば幸いです。よろしくお願ひします。

2020年7月26日の日曜日午前10時から、大通公園2丁目のブロンズ彫刻6作品の清掃に、「札幌彫刻美術館友の会」の皆さんとようやく参加することができました。

実は、私の会長の年度に、札幌大通公園 RC (ロータリークラブ) では、従来の社会奉仕活動である「ポリオ募金」と「献血促進活動」の見直しを検討していました。特に、「献血促進活動」については、日本赤十字社との協力関係がうまく構築できず、新しい社会奉仕ができないものかと思案しているところでした。

その時に、O 会員の奥様が所属されている「札幌彫刻美術館友の会」を紹介していただき、「野外彫刻清掃活動」のことで知り、新しい活動として本クラブにふさわしい活動であるとの認識に至りました。その理由は、当クラブの10周年記念誌にも記載されておりますが、2008年の8月12日に単発の事業ではありましたが、すでに退会した T 会員の発案で、市内の高校生20名ほどを集めて「大通公園から始まる彫刻ツアー」を企画・実施しました。大通公園の彫刻から始めて、五輪橋(南区真駒内)の彫刻を経て、彫刻の森美術館の野外彫刻、本郷新記念札幌彫刻美術館を1日で見て回ろうというぜいたくで忙しいものでした。私も参加させていただき、札幌に多くの彫刻があることを再認識しました。ちなみにこの事業は、翌日の北海道新聞に掲載されました。



その理由は、当クラブの10周年記念誌にも記載されておりますが、2008年の8月12日に単発の事業ではありましたが、すでに退会した T 会員の発案で、市内の高校生20名ほどを集めて「大通公園から始まる彫刻ツアー」を企画・実施しました。大通公園の彫刻から始めて、五輪橋(南区真駒内)の彫刻を経て、彫刻の森美術館の野外彫刻、本郷新記念札幌彫刻美術館を1日で見て回ろうというぜいたくで忙しいものでした。私も参加させていただき、札幌に多くの彫刻があることを再認識しました。ちなみにこの事業は、翌日の北海道新聞に掲載されました。

今回はこの意味で、再び彫刻と向き合うことができる機会を得られると楽しみにしておりました。しかし、新型コロナの感染拡大により、春になっても清掃はできず、地区から補助金をいただいていたにもかかわらず、私の会長年度は6月で終わってしまいました。「ようやく」と先に書いたのは、新年度になって待望の活動が実施されたからです。わがクラブではこの日のためにおそろいのウインドブレーカーを作るほどの力の入れようでした。写真を見てください。

この日は、都合で当クラブの会員は6名しか参加できませんでしたが、友の会の皆さんに負けないよう、これからさらに参加者を増やしていきたいと思っています。また、当日は彫刻の清掃のイロハを教えていただければだけでなく、清掃を手掛けた6作品の解説もしていただき、誠にありがとうございました。今後とも末永く、協力関係を続けていくことができれば幸いです。よろしくお祈りします。

コロナ禍初の彫刻清掃 〈泉の像〉など大通 RC と

新型コロナウイルス感染拡大で自粛が続いていた彫刻清掃が7月26日、大通 RC（ロータリークラブ）との共催で行われた。（5 ページ参照）



例年なら4月早々から清掃活動が始まるが、今年はコロナ感染拡大による自粛要請から総会の開催も見送られる中、やっとこの日の作業となった。

今回は大通 RC からの要請もあり、同クラブから6人、友の会側も11人が参加、西2、3丁目の〈泉の像〉〈石川啄木像〉〈牧童〉〈開拓母の像〉〈花の母子像〉など6点を洗った。

全員マスク姿で三密対策にも留意しての作業で、おそろいのウインドブレーカー・スタイルのクラブ員と中性洗剤を使

ったブラッシングと水洗いを行った。最後に友の会会員の彫刻解説があり、「作家や彫刻が置かれた時代背景が分かり興味が深まった」などの声が寄せられた。

〈猫とハーモニカ〉に保護材塗布 猛暑の中島公園で

コンクリート彫刻の劣化を防ぐための保護材塗布が8月19日、炎天下の中、中央区の中島公園で行われた。

これは同公園にある彫刻家・山内壮夫の〈猫とハーモニカ〉など4体のコンクリート彫刻の保存のために友の会が毎年取り組んでいる作業で、この日は8人が参加した。



作業は洗剤で汚れをきれいにふき取って乾燥させた後、表面保護材であるパーマシールドを彫刻に塗り込んだ。パーマシールドは服に着くと落とすことができないので、ゴミ袋を利用したコロナ並みの防護服を着て30度を超す猛暑の中で

の作業となった。黒ずんだ汚れも取れ、つやも出て、ネコの表情も明るくなったよう。4、5年は塗布材の効果があるという。

アート・アニュアル2020

渡辺行夫さんも出品

友の会会員で彫刻家の渡辺行夫さんら現代アート作家9人による「アート・アニュアル2020」が南区澄川の「紅桜公園」で8月22日から9月30日まで開かれた。



石の彫刻家で知られる渡辺さんはイタドリで制作した恐竜の新作を発表した。以前、チャペルとして使われた白一色の会場にイタドリの作品が展示され、意表を突く格好。そのほか川上りえさんらの金属作品なども並び、自然豊かな公園のあちこちをアートの世界に包み込んでいた。

赤平市へ彫刻清掃指導

8月26日雨の中

彫刻家・流政之の作品が数多くあり、ボランティア団体「流政之応援隊」（植村正志代表）の活動が盛んな赤平市の市民活動支援センター（佐藤智子理事長）の要請で8月26日、友の会のメンバー4人が同市を訪れ、道内や国道12号線沿い市町村の彫刻設置状況、彫刻の清掃マニュアルなどを紹介し、関係者らと交流した。

会場の
市体育館
には高橋
雅明教育



長ほか市職員ら約20人が参加、グーグルマップによる赤平市ほか道内の野外彫刻地図コンテンツなどを紹介。また、雨天のため当初予定していた体育館前のブロンズ像2体の清掃を館内にある鈴木吾郎作ブロンズ像《柔》に変更、清掃マニュアルに沿った水洗と蜜蝋塗装を実施した。

秋のバス旅行中止

コロナウイルス感染拡大で

オープンしたばかりの胆振管内白老町の「ウポポイ」見学を予定していた9月16日の秋のバス旅行がコロナ禍の影響で中止になった。

友の会「つぶやき」コーナー
出合い

2月に入会したばかりです。新型コロナ自粛下でゆっくり散歩して、いたるところに彫刻があることに今更ながら気づきました。どの彫刻も迫力があり、凛とした美しさに魅入ります。北海道にある彫刻のデータベース化や清掃、保全。壮大なプロジェクトにわくわくしています。 内田 幸子

入会のきっかけは小樽、余市へのバス旅行に誘われたことです。小樽芸術村、自分では行く機会のないアトリエ訪問、その場所、場所で聞く解説、有意義な一日でした。さまざまな彫刻が皆さんのボランティアで保たれていることを知り、それぞれの作品に直接触れて背景を知り、楽しくなりました。 川渕 幸枝

いつも一緒に友の会の活動に参加していた前田良子さんが高齢になり、札幌を離れて群馬の施設に入所されたため退会しましたが、前田さんにバスツアーのことや本郷新の＜無事の民＞の会に参加し、感激したことを電話で楽しく話しています。私が送る会報も楽しみにしています。久保田 彩荷

私と彫刻の出合いは知事公館にあるサッポロビールの前身を創った村橋久成という人物の胸像から始まりました。銅像をきれいに磨いた達成感、その人物の時代背景、どのような思いで作られたかに思いをはせ、彫刻を通して歴史を楽しんでいます。 石谷 和枝

事務局日誌

▼2020年6月6日＝役員会のオンライン会議テスト(大関会員の指導で橋本会長ら有志)▼11日＝コロナウイルス感染拡大のため定例役員会中止▼26日＝会報「いずみ」72号発行、「ケア」彫刻編集会議(エルプラザ)▼7月9日＝定例役員会(エルプラザ)彫刻清掃活動打ち合わせ▼21日＝市文化局訪問▼26日＝大通公園彫刻清掃(大通ロータリークラブ共催)本文5ページ参照▼31日＝市みどりの推進本部訪問▼道生活文化局対策会議(道庁)彫刻データベース共用への打ち合わせ▼8月13日＝定例役員会(エルプラザ)彫刻清掃への応援要請などについて▼19日＝野外彫刻保護材塗布(中島公園)山内壮夫コンクリート彫刻など▼9月6日＝彫刻清掃活動(大通公園)大通 RC とく若い女の像>ほか▼10日＝定例役員会(エルプラザ)

編集後記▼コロナ禍で活動が停滞する中、「友の会ニュース」のページに「つぶやき」コーナーを作ってみました。テーマを決めて皆さんの声を集めたいと思います。その節はご協力お願いします。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.73

2020年10月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」73号 目次

自作自選43 《 エントランスで妖精と… 》 菅原義則	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季43 『特定非多数』をプラスする…』 寺嶋弘道	2
風見鶏「今年の夏に考えたこと」 斉藤浩二	3
寄稿「コロナ禍と彫刻美術館」 岩崎直人	4
寄稿「野外彫刻清掃活動に参加して」 菅原秀二	5
友の会ニュース	6-7
コロナ禍初の彫刻清掃/保護材塗布/アート・アニュアル/赤平市彫刻清掃	
つぶやきコーナー	7
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■没後40年記念展

本郷新・全部展① 10月3日(土)～12月6日(日)

札幌彫刻美術館に所蔵されている本郷新の全作品を展示し、その作品世界の全貌を伝えるシリーズ展の第一弾。本郷新の没後40年にあたる令和2年度から、彫刻美術館開館40周年にあたる令和3年度にかけて、2カ年度にわたり開催する。

記念館

■没後40年記念展

本郷新・全部展② 10月3日(土)～2021年4月22日(木)

全部展①では、彫刻美術館に多数収蔵される本郷の素描、油彩、版画作品を一挙公開し、昭和を代表する彫刻家の平面作品に向けた知られざる熱意を紹介する。

全部展②では若かりし頃のブロンズ彫刻を中心に本郷芸術の揺籃期に焦点を当て、ロダンや高村光太郎からの影響下での制作から独自の作風を確立するまでをたどる。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sapporo-chokoku.jp>